

第三十一回宮柊二記念館全国短歌大会

選者

三枝 浩樹 先生

田中 愛子 先生

# 入選作品集



# 第三十一回宮格二記念館全国短歌大会ご参加へのお礼

大会会長 魚沼市長 内田 幹夫

第三十一回宮格二記念館全国短歌大会に、遠くはブラジル、オーストラリア、トルコから、そして日本全国各地の皆様から、多くの歌を寄せていただきたことに心からお礼申し上げます。

今大会一般部門においては千首を超える作品が寄せられました。ジュニア部門とあわせ、全体では今年も約一万首の応募をいただき、「全国短歌大会」の名にふさわしい大会として開催することができました。このようなたくさんの応募歌について心を込めて選歌をしてくださった三枝浩樹先生、田中愛子先生に心からお礼を申し上げます。

三枝浩樹先生は一九四六年に山梨県でお生まれになりました。高校一年生の夏に短歌を詠み始め「沃野」に入会、植松壽樹に師事。その後「反措定」「かりん」「りとも」を経て、「沃野」に復帰。現在「沃野」編集発行人をお務めです。

歌集には『朝の歌』『銀の驟雨』『世界に獻ずる二百の祈禱』『みどりの搖籃』『歩行者』『時禱集』『黄昏』があります。田中愛子先生は一九五四年に長野県でお生まれになりました。一九八六年にコスマス短歌会に入会され、現在は同短歌会選者及びコスマス埼玉支部支部長をお務めです。同人誌「棧橋」を経て「灯船」同人としても活動されています。

歌集には『三藍』『傘に添ふ』『秋の水深』があります。

このような素晴らしい先生お二人から選歌いただけたことを皆様とともに感謝したいと思ひます。

さて、夏の賑わいが去り、魚沼の里山は秋の装いに変わります。山々が紅葉に染まり、澄んだ水面にその姿を映す様は、訪れる人々の心を奪う絶景です。宮格二先生の歌の中にも、魚沼の風景を詠まれたものが数多くあります。また、この季節は豊かな食の恵みにあふれています。黄金色に輝く田んぼで収穫された新米は格別の味わいですし、山菜やきのこなど、里山が育んだ旬の味覚も楽しめます。

実りの秋を迎えた魚沼で、心満たされるひとときを過ごしてください。

結びに、皆様のご支援とご協力により、三十一回目の大会を成功裏に終えることができましたことを改めてお礼申し上げます。そして、引き続き多くの人々が短歌に親しむとともに、楽しみながらも一層研鑽されることを祈念し、お礼のことばをいたします

## 三枝 浩樹

宮柊二記念館全国短歌大会にみなさまから寄せられた作品、その数に圧倒されながら選歌をいたしました。小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部、それぞれの年代のとらえた世界、見ている風景、暮らしの気分が作品に投影されていて、じわじわと感銘を覚えた次第です。短歌というみじかい詩形は長すぎず、短すぎず、なかなかいいものだなあ、と改めて実感いたしました。

「一人の心は万人の心 文化の根源はここにある」とは前田晁（近代の文学学者で「文章世界」の編集者）の言葉ですが、まさにその通りだと思います。あなたが実感したこと、きみの心に浮かんで過ぎてゆく感情は、やがては全ての人々の心を通過してゆく感情であり、感のさざなみでもあって、共通し共有できる普遍性をもつたものだという考えです。文化というものの根源はそこにある、と言っているのですね。短歌という詩形の魅力と可能性をうまく言っている言葉としても味わえます。

びょういんで出会つた友達元気かなおんじ空をみてるといいな

朝ごはんパンのにおいて目がさめた今日はなんだかいい日になりそう

思い出はいつか旅立つ日のための大事をお守り覚えていてね

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしさ、またね、またいつか

こんな歌を詠んだ作者の方に表彰式でお目にかかるのを楽しみにしています。

短くて、しかも豊かな陰翳（ニュアンス）を湛えた歌の魅力！

小学生の部  
中学生の部

高校生の部  
一般の部

（ニュアンス）

## 田中愛子

この度、宮松二記念館短歌大会の選者のお話をいただき、光榮に存じながらも、任の重さにとても緊張いたしました。選歌をするにあたり、私が恐れているのは、いい歌を見落としてしまうことです。しかし、この度は選歌を一緒にさせていただく選者が三枝浩樹氏とお聞きし、大きな船に先導される思いで、とても心強く選歌を進めることができました。心より感謝申しあげます。

こんなにたくさんのお話をまとめて拝見するのは初めての経験でした。また、その大半が小、中、高校生の作品ということで、とてもわくわくした時間を過ごすことができました。

小学生の作品は、家族のなかでの気づき、犬や猫に対する思いなどがとてもかわいらしく、そのかわいらしさに何回もうるうるしてしまいました。

また、中学生、高校生の作品は、青春を詠った生命感にあふれる作品に加え、ほのかな恋心や深い恋情が詠われた作品もあり、熱く、ほほえましく感じられました。

私は埼玉県で講師として短歌教室に参加しておりますが、短歌の入門書について尋ねられた時は、小島ゆかりさんの『短歌入門 今日よりは明日』と宮松二先生の『短歌実作』を紹介しております。先ごろ桑原正紀さんの『ようこそ、歌の世界へ』が刊行されましたので、これからはこちらもお勧めしようと思っています。先日は、教室に入会された七十代の方が宮先生の作品を読みたくなり、岩波文庫の『宮松二歌集』をお求めになつたとうかがい、とてもうれしく思いました。こちらの歌集は私もリビングや寝室に置いて、いつでも手にとれるようにしています。

これからも宮先生のご縁、コスモスのご縁、短歌のご縁をたいせつにして、たくさんの方の作品と出会いたいと思ってます。この度はとても貴重な体験をさせていただきました。心より感謝申しあげます。

## 選 者 略 歷



三枝 浩樹 (みいぐさ ひろき)

1946（昭和21）年山梨県甲府市生まれ。

高校一年生の夏に短歌を詠み始め「沃野」に入会、植松壽樹に師事。

その後「反措定」「かりん」「りとも」を経て、「沃野」に復帰。

現在「沃野」編集発行人。2016年「二〇一五年夏物語」（第52回短歌研究賞）、2017年「時禱集」（第22回若山牧水賞、第52回迢空賞）。2018年第42回野口賞、山梨県文化賞特別賞を受賞。歌集に『朝の歌』『銀の驟雨』『世界に獻ずる二百の祈禱』『みどりの搖籃』『歩行者』『時禱集』『黄昏』。評論集に『八木重吉 たましひのスケッチ』『抑制の美学 植松壽樹ノート』（近刊）。



田中 愛子 (たなか あいこ)

1954年11月11日長野県佐久市生まれ。

1976年裁判所職員となる。長野地方裁判所管内勤務ののち、さいたま家庭裁判所管内勤務を経て2013年退職。

1986年コスモス短歌会に入会。

現在、「コスモス短歌会」選者。コスモス埼玉支部支部長。同人誌「棧橋」を経て「灯船」同人。現代歌人協会会員。日本歌人クラブ南関東ブロック幹事。埼玉県歌人会理事。埼玉文学賞短歌部門審査員。歌集に『一藍』『金に添ふ』『秋の水深』。

# 一般部門

応募歌数 一、〇八四首

## 最優秀賞

雪の日に生まれて母の名は「みどり」春待つ祖父のこころを思ふ

眞庭義夫  
(群馬県利根郡)

## 選者賞 (三枝浩樹 選)

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしさ、またね、またいつか

久保澄子  
(栃木県那須塩原市)

## 選者賞 (田中愛子 選)

父眠る大陸からの黄砂きてわれの車を静かにつつむ

平澤恵美子  
(新潟県魚沼市)

## 魚沼市長賞

花の名をたづねる写メール届きたり「め」  
女の子やさしくノックする」と

吉仕節子

（新潟県長岡市）

## 新潟日報社賞

「ばあちゃんはお空にいるの？」無垢な眼に「いるよ」と返すかのような青

伊藤理奈

（新潟県三条市）

## 宮柊一記念館長賞・・・五首

少年の高空へ蹴るジュース缶空の感触帶びて落ちくる

穂苅真泉

（長野県安曇野市）

指に触るるオブラートにもはつかなる梅雨じめりあり

胃薬を飲む

榛葉貞代

（静岡県藤枝市）

朝練へ行く子に庭の朝顔が次々鳴らしてゆくファンファーレ

吉本美加

（神奈川県川崎市）

YOASOBIやあいみょんの曲流されてジムはわたしをアップ・デートする

西崎恭司

（神奈川県川崎市）

愛用の歳時記枢に入れしこと時に悔いたり母思ふとき

難波達子

（兵庫県加東市）

## 秀逸（二）・・・六首

ヘリコプター機銃掃射を絶対にしない保証はない梅雨空に  
解ほどかれて今朝の窓辺を飾りをり大きなる退職の花束

帰りゆく白鳥のこゑも塗り込めて今年最後の畦塗る老いは

数十年人目に触れぬ仄暗い機械の奥で生きていた螺子

アカシアが匂ひてをらむ会へざりし父の戦死の街大連に

照れながら子自慢をする親たちの笑顔の灯る冬の教室

樋口淳一郎

（香川県高松市）

前川泰信

（岐阜県可児市）

桐沢 茂

（新潟県新発田市）

松井孝祐

（愛知県豊川市）

糸田富美代

（兵庫県尼崎市）

中村麻美

（新潟県長岡市）

## 秀逸 (二) • • • 十六首

「週一度ここで話がしたいです」 傻く笑う君を待つ午後

伴 星穂

(神奈川県横浜市)

空の広さ変はらぬはずと思へども西瓜畑の空は三倍

前川久宜

(石川県金沢市)

五月四日はみどりの日なり 茄でたての絹さやに振るクスコの塩を

加藤久子

(神奈川県足柄上郡)

言ひ過ぎて後味悪き昼下がり古書店巡りて和菓子屋に寄る

斎藤 純一

(新潟県新潟市)

藤房を離れられない虫たちを猫が見上げる悪戯いたずらな目で

北村純一

(神奈川県厚木市)

中庸ちゅうようを演じる日々のその彼方私はいるかどこにいるのか

毛利まち

(オーストラリアビクトリア州)

クローバーの花で冠かんむり編みし友ゲタ屋の勝ちやん今はいづこに

佐藤 昇

(愛知県尾張旭市)

購いし紅バラ一輪壺にさす吾が領域の夜のしづけさ

中村佐世子

(愛知県岡崎市)

雪ふかく地吹雪荒ぶ登校に泣く幼きを守る兄あり

眞庭義夫

(群馬県利根郡)

手のひらで風呼ぶこともできるほどぶなの樹下に春を感じる

野村訓啓

(岐阜県飛騨市)

残雪をキックステップで登りゆく若葉がひかる小屋番の道

磯部 剛

(新潟県魚沼市)

初秋の空気も籠めてスラリ履くわが買ひ替へし農の長靴

渋谷和子

(新潟県新発田市)

高々と戦死の弟の墓を建て戦語らず父は逝きたり

志田とみ子

(新潟県加茂市)

竈かまど火のくすぶりもえずあせりゐる嫁たりし日の夢にめざめる

跡部すみ子

(長野県長野市)

また一軒農捨つる家の噂きく短日のひかり冷たきなに

村上秀夫

(山形県酒田市)

春の日に笑顔みたいなじやがいもがゴロゴロしているいとこの畠

長谷川公代

(愛知県豊橋市)

古き窓新調すればなつぞらを載せてサッシがはこばれてくる

向井富美子

(香川県観音寺市)

「山西省」証言朽ちず戦場の兵たりし者逝き果てるとも

中野秀秋

(愛知県小牧市)

大縄に入れずしやがんだ日のことをぼんやり思う午後の公園

染宮千美

(栃木県宇都宮市)

北方の町にもインバウンドの波は来て共に見ており堀割の鯉

若林智子

(新潟県新潟市)

余熱にてうまく仕上がる料理ありわれにも残るかすかな余熱

涌田和芳

(新潟県長岡市)

生む性の深いかなしみ身が利かぬ妻の生理に手を貸しをれば

高橋忠

(新潟県新潟市)

ひとクラス五十五人で九クラス今日は火葬の順番を待つ

樋口 勉

(和歌山県海南市)

子や孫に米食べさせてやりたくてすいとんを食むあの日のやうに

林 建生

(愛知県岡崎市)

機械では届かぬへりに苗を植う田植日和にひと手間かけて

花ひらくごと胸に咲くキルト展五月の雨は白くけぶれる

先生はA-Iが替われぬ砦だと信じていたしあと数年は

深緑の山面に見ゆ藤房の十重二十重にもつらなり咲きぬ

「紫電改」見れば小さき燃料器尽きて果てしか沖縄の海

良き事のあると思へり夕立後港に大きな落暉かがやく

少しづつ鈍る手足に苛立てど転ばぬように干し物をする

高架橋カーブするとき胸踊るバツクミラーに剣岳現はれ

梯はしをかけ火消しの意氣で鈴なりの青梅掩げば晴れ間ひろがる

妻の名の上に小さく赤の字で「故」と記されたり同窓会名簿

花田敦子

(島根県出雲市)

椋本信枝

(静岡県藤枝市)

米沢光人

(長野県千曲市)

小林英子

(新潟県上越市)

寒川靖子

(香川県丸亀市)

宇野とし子

(千葉県匝瑳市)

茂木キク子

(栃木県鹿沼市)

西村好美

(富山県黒部市)

地代友美

(福岡県直方市)

小谷悦崇

(京都府京都市)

「ママ、ママ」と泣く幼らの声いつか消え園は若葉の季節となりぬ

桑田美智代

(熊本県八代市)

帰省子の帰りし後に施錠する音のみ響く青葉の夕べ

南雲悦子

(新潟県上越市)

アルバムの母の写真は捨てきれず笑顔でいればなおさらのこと

柿原和子

(熊本県熊本市)

冷蔵庫を開けてしばらく卵見る開けた理由を思い出すまで

松本 進

(山口県光市)

悪しき病みつからぬやう願ひこめ靴みがき上ぐ夫の受診日

小出い子

(埼玉県川越市)

ただ独り逝<sup>ゆ</sup>きし叔父を送る日に見慣れし母に姉の顔みる

柴田つばさ

(埼玉県さいたま市)

つまくれなゐの咲く道ゆけばはろばろと子どものわれを呼ぶははのこゑ

勝木ひさ子

(東京都小金井市)

点々と続くあかりの果てる先岬は海の暗さに紛る

吉村京子

(山口県光市)

どしゃぶりの雨をつきぬけ神主のバリトンの声が天をことほぐ

木暮由利子

(群馬県渋川市)

# ジュニア部門（小学生の部）

応募歌数  
一、三七九首

## 最優秀賞

びょういんで出会つた友達元気かなおんなんじ空そらをみてるといいな

佐藤翔太

（小千谷市立小千谷小学校）

## 選者賞（三枝浩樹選）

五の私ママにくつつきたがるけど十二の私がストップかける

小宮山総織

（上越市立直江津南小学校）

## 選者賞（田中愛子選）

弟と二人だけで行く映画館主人公よりぼうけんしたよ

須貝律香

（村上市立金屋小学校）

## 魚沼市長賞

学校からずっとけつてきた小石もうすぐ家で小川におちる

西多晃都

(鴻巣市立鴻巣中央小学校)

## 新潟日報社賞

まいにちをげんかんすゞフレブルはそとのけしきもおともだちだね

岡本 要

(魚沼市立小出小学校)

## 宮柊一記念館長賞・・・五首

夏休みとうとう今日はさいごの日ランドセル見たひやあせやばい

廣濱佑優

そろばんをはじくかわいい妹のひたいの汗ががんばりじるし

小山千郁

うれしいなかつてくれたよありがとうつかうよバットすごくうれしい

笹岡 陸

いいてんきぱぱといったよかわあそびみずのかけっこにじがみえたよ

佐藤優朱

お父さんねている私になでなでする今日も私はねたフリをする

小宮山維織

(光市立島田小学校)

(魚沼市立広神東小学校)

(魚沼市立堀之内小学校)

(上越市立直江津南小学校)

## 秀逸・・・二十一首

ひらひらとチヨウの親子が遊んでるママも手を止め私と遊んで

小宮山維織

(上越市立直江津南小学校)

お散歩で川に入つたぼくの犬はしゃぎすぎだよ体すべぬれ

古田島遙馬

(魚沼市立堀之内小学校)

いちごあじつめたくうまいかきごおりくちのなかだけゆきがふつて いる

石坂遙馬

(小千谷市立小千谷小学校)

おじいちゃん大ずもうにくわしいよいしおにみるのがぼくのたのしみ

佐々木新

(長岡市立川崎小学校)

休みの日家族みんなで田うえした私は苗箱百枚洗つた

下村 紗

(魚沼市立宇賀地小学校)

デイズニーのおみやげもらつたうれしいなもつたいなくてつかえないな

小林初唯

(魚沼市立伊米ヶ崎小学校)

朝の5時朝から青空キレイだな空を飛びたい世界を見たい

宮下桃花

(魚沼市立小出小学校)

ひをつけたうちあげはなびこわすぎていえにはいるよおときこえるよ

五十嵐優稀

(魚沼市立須原小学校)

あさがおのはなにはちさんこんにちはかふんをつけてつぎのおはなへ 佐藤 陽

（魚沼市立須原小学校）

ピカピカのわたしのあかいランドセルまいにちいつしょいいっぱいあるく 松田彩愛

（魚沼市立広神東小学校）

たんぽのなかおたまじやくしがいーっぱいかえるになつたらいつしょにあそぼ 松田彩愛

（魚沼市立広神東小学校）

夏の日にメジャーで計るのびたねこ暑さといつしょにのびる、のびーる 梶澤心平

（魚沼市立広神東小学校）

あついなつゆうだちのあとにじがでるひがしのそらのおなじばしょに 佐藤優真

（魚沼市立広神東小学校）

ランドセル仲良くふたつならんでる私と妹おなじ赤色

松田彩聖

（魚沼市立広神東小学校）

ふかい海もぐつてみたらおさかながたくさんいたよかぞえきれない 佐藤心晴

（魚沼市立堀之内小学校）

おはやしの笛をしてたら友だちを見つけてすぐくうれしかつたな 田村歌椰

（小千谷市立小千谷小学校）

よつこらしょ重み感じる新学期いくぜ相棒わがランドセル 渡邊彩絆

（小千谷市立小千谷小学校）

夏休み大きなスイカもらつたよ笑顔で食べる大きな口で 渡邊愛央

（小千谷市立小千谷小学校）

ちようちんと屋台の光に照らされて真っ白わたあめキラキラ光る

公園のもみじで赤く染まる池雨が水玉もようをえがく

髪結つた私の耳に粉雪があのねあのねとヒソヒソ話

小宮山維織

(上越市立直江津南小学校)

小宮山維織

(上越市立直江津南小学校)

小宮山維織

(上越市立直江津南小学校)

佳作・・・二十九首

すずしいななつの夜空に星うかぶ一番星がもううかんてる

森山朋久

(魚沼市立伊米ヶ崎小学校)

用水路で魚をとつてグーグルで名前しらべたモツゴとタモロコ

下村 望

(魚沼市立宇賀地小学校)

かきごおり食べると口に夏が来るいつきに食べるとあたまがキーン

森山愛結佳

(魚沼市立小出小学校)

夏の空おちてきそな星たちだ手をのばしても星はとれない

佐藤朝陽

(魚沼市立小出小学校)

夏の花ひまわりのかげ青空とむぎわらぼうしかぶつてさんぽ

外角涼菜

(魚沼市立小出小学校)

空の上小さくなつた街並みを見ながらカフェでおしゃれなごはん

稻村春斗

(魚沼市立小出小学校)

かいがらをひろうとうみがざぶーんとかいがらうみのなかはいっちやつた

佐藤藍香

(魚沼市立須原小学校)

なつやすみかぞくでいったかいすいよくちいさなおとうことしひいっしょに

櫻井瑠奈

(魚沼市立須原小学校)

北海道私が好きなシマエナガ本物見たい声もききたい

大平絵真

(魚沼市立須原小学校)

ともだちとおなじテープルならんでたあのあさごはんずつと思い出 まなつの日ゆうひがしずむもりのなかひみつきちからみるなつのほし 尾澤侑香 茂野颯太

(魚沼市立広神東小学校)

甲子園今はテレビで見ているがおれもぜつたい行くそのぶたい

桜井颯介

(魚沼市立広神東小学校)

カブトムシ虫の王様かつこいいクワガタもいいでもカブトムシ

五十嵐仁一朗

(魚沼市立広神東小学校)

たくさん氷を入れて飲む麦茶カラントかなでる風りんのよう

馬場優弦

(魚沼市立広神東小学校)

夏休み家の手伝いやかそうじぞうきん黒くなるまでふいた

大淵 匠

(魚沼市立堀之内小学校)

あつい夏そとがあつくてでられないえでゲームをするしかないな

山田煌雅

(魚沼市立堀之内小学校)

あつすぎてにわのやさいがげんきないぼくがたくさんみずをあげるよ 渡辺遙翔

(魚沼市立堀之内小学校)

スケボーはすごく楽しくむずかしいおぼえたいのはオーリーのわざ

櫻井望結

(魚沼市立堀之内小学校)

ジャズダンスのジャンプキックができた時わたしの心があつくなつたな

上重七星

(魚沼市立堀之内小学校)

川あそびとびこむ人がいる中で自分はこわがりたきにうたれる

八木佑安

(魚沼市立湯之谷小学校)

べっぴんだみずみずしくてさわやかなあまくておいしい真つかなスイカ

小河内彩貴

(岡谷市立小井川小学校)

ともだちとしみんプールでおよだよふかいプールはあしがつかない

佐藤 凜

(小千谷市立小千谷小学校)

ラムネかんぶしゅつとあけて始まるよもう夏という時期が来たんだ

沢中結月

(小千谷市立小千谷小学校)

夏休みプールに行くよもうすぐね楽しむじゅんびできていますよ

山田 葵

(小千谷市立小千谷小学校)

福井まで兄のおうえん家族でねうちわたたいて勝利を願う

星野紗徳

(小千谷市立小千谷小学校)

さびしくて明日も会える友達に両手大きくさよならをする

小宮山維織

(上越市立直江津南小学校)

なつよぞらはじめて見たよながれ星まばたきしたらきえてなくなり

井上翔稀

(長岡市立福戸小学校)

なつやすみあさがおのくきのびすぎてアイパッドからはみでています

辻村結芽

(新潟大学附属新潟小学校)

母さんが帰つてくるまでユーチューブかぎの音でユーチューブ終わる 福原芽生恵

（光市立三井小学校）

## ジュニア部門（中学生の部）

応募歌数 四、〇八二首

### 選者賞（三枝浩樹 選）

朝（はん）パンのにおいて目がさめた今日はなんだかいい日になりそう 糸賀涼星

（新潟市立亀田中学校）

### 選者賞（田中愛子 選）

夏の夜螢見に行く桂川スマホで撮れぬやさしいひかり

加藤亞樹

（長岡市立山本中学校）

## 魚沼市長賞

前日の親子喧嘩のモヤモヤが「おはよう」の声でリセットされる。

星野莉来

(新潟市立岡方中学校)

## 新潟日報社賞

かがやきにふれたあの日の舞台からとまつた夢がまたうごきだす

鶴若愛華

(長岡市立南中学校)

# 宮柊一記念館長賞・・・六首

小さな手松ぼつくりをひとつせ兄の威光は今日も安泰

夏の空入道雲がもくもくと空へ飛び立つ特大アーチ

夏の空の飛行機指したきみの指とてもきれいに光つて見えた

通知表親に見せるのビビつてて先に犬に見せて報告

弁当を見せ合い食べ合い笑い合う予鈴が鳴るまで僕らの時間

雨の香をペトリコールと名を知りて夕立のなか傘を広げる

栗田晴生

(中央大学附属横浜中学校)

植田龍輝

(中央大学附属横浜中学校)

茂木朔愉

(岩沼市立岩沼中学校)

長谷川雄士

(慶應義塾普通部)

衣川太志

(慶應義塾普通部)

伊藤耀葉

(中央大学附属横浜中学校)

# 秀逸・・・二十三首

入道雲胸の奥まで広がつて汗ふきながら風を待つてゐる

帰り道日差しの下で日傘差す影に広がる小さな楽園

ひまわりを見てたらなんか元気出た落ちこむ理由忘れそุดよ

沖縄の金網の先地図になくただ聞こえるは飛行機の音

雲ひとつない空見上げ深呼吸心の濁も風にとけゆく

マウンドに立つて見渡すグラウンド静かに大きく深呼吸する

夏休み朝の風だけ浴びながら歩いた道の草の匂いよ

脇役わきやくも主役しゅやくになれる物語ものがたり巻き戻まきもどし不可ふかドラマ「人生じんせい」

武田昊樹

(中央大学附属横浜中学校)

土田朱莉

(長岡市立山本中学校)

野澤愛利

(新潟県立燕中等教育学校)

吉田葵依

(中央大学附属横浜中学校)

山本一瑳

(新潟市立龜田中学校)

沼田一紘

(岩沼市立岩沼中学校)

後藤一花

(魚沼市立小出中学校)

柳 賢亮

(太田市立太田中学校)

空の下ソーダを開けるビー玉の音二人の笑顔ころんと弾ける

佐藤優衣

(小千谷市立南中学校)

空の雲ずっと見てても飽きはしない一人ぼうつとこのときはいい

織茂修也

(慶應義塾普通部)

雨あがりしつとりにおう土の道今日は一体どこへ行こうか

松田麗央

(慶應義塾普通部)

スマホ見る通行人は見ていない茜に染まる秋の夕焼け

久世琳花

(芝浦工業大学柏中学校)

位置に付き鼓動高まりスタートの音で大地を全力で蹴る

小宮山一止

(上越市立直江津中学校)

夕涼みゆるく流れる風の音遠くの波とひとつにひびく

曾谷明里

(中央大学附属横浜中学校)

クーラーのきいた店内湯気のなかソーキそばから旅がはじまる

佐野 舞

(中央大学附属横浜中学校)

手袋し雪を踏みしめ待ちわびた柚子の実いよいよはさみを入れる

井上 采

(新潟県立燕中等教育学校)

また明日言葉を交わす友達とまた会いたいと思う毎日

西村颯良

(新潟県立燕中等教育学校)

ドトールで始めて頼むコーヒーは苦く感じる大人の気分

土佐柚巳

(新潟市立岡方中学校)

日記には「たのしかった」と書いたけどほんとはちょっとさびしくなった 小林花菜

（新潟市立亀田中学校）

阿部悠真

（新潟市立亀田中学校）

夏休みあつい中くる学校はいつもと違うしづけさがある はつテスト思つてたよりてんすうがとれていましたおどろきました

大崎こまみ

（長岡市立刈谷田中学校）

この世には永遠なんてないけれど永久に続けよ友との時間

中澤柚葉

（長岡市立三島中学校）

花火見るいつもふざけた友達の浴衣姿に目を奪われる

田中美波

（長崎市立深堀中学校）

佳作・・・二十九首

一番星は孤独にひとつ輝いてどの星とも結ばれない

中川海愛

(岩沼市立岩沼中学校)

目が覚めて耳に入るはセミの音親よりはやくおはよう交わす  
家までの強い日差しの帰り道いつもより距離が長く感じて

穴沢彩香

(魚沼市立魚沼北中学校)

宿題中かぞくからのごはんだよはごはんのようにあたたかいな

宮下菜々花

(魚沼市立小出中学校)

もし父にごめんなさいが言えたなら聞けるかなあのおはよう

浅井愛未

(魚沼市立小出中学校)

友達と向かっているのは新しい春の太陽差しこむクラス

高橋彩来

(魚沼市立小出中学校)

帰り道楽しくおしゃべり妹とこの幸せが続きますように

今井結斗

(魚沼市立小出中学校)

線香花火小さな火玉落ちるまで静かに見つめて息も止めてた

角屋璃音

(魚沼市立堀之内中学校)

魚沼の米粉使ったクレープに作った人の工夫感じた

眞島花恵

(魚沼市立堀之内中学校)

次はまた保育士になり来てねって言葉を胸に頑張つていく

竹林みこと

(大阪市立長吉六反中学校)

サイダーをプシュッと開ける音だけで汗も吹き飛び幸せ感じる

岩佐颯太

(小千谷市立南中学校)

朝露で曇つた窓にハート描く対向列車に送る暗号

安東祐徳

(関西大学第一中学校)

昼寝中そのすき狙い絵を描く寝顔の弟かわいくて

松井寧音

(須賀川市立第一中学校)

つらいときうれしいときもいつだって自分自身がいつでもみてる

井上志織

(中央大学附属横浜中学校)

潮風に吹かれて食べるラーメンはいつもと違う特別な味

今井祐輔

(中央大学附属横浜中学校)

盛岡で家族みんなでわんこそばママ四十杯わたし百二十

今泉桜瑛

(中央大学附属横浜中学校)

あの人の近くになれたらうれしいなそしてついでに仲良くなれたら

金高優希也

(十日町市立中条中学校)

おこづかいもらつてもすぐきえていく手に残るのはレシートばかり

久住清楽

(長岡市立大島中学校)

県大会太刀打ちできずに負けた夏見上げた空は大きく広く

遠藤小祐里

(長岡市立大島中学校)

金曜日学校終わった帰り道解放されて空も飛べそう

青柳優仁

(長岡市立大島中学校)

見上げればひかりを追つてひらく顔ひまわりみたい君の横顔

福田 真

(長岡市立南中学校)

笑い声風にまぎれてはね返るぼくらの夏が空に広がる

村井心優

(新潟県立燕中等教育学校)

覚えたはずなぜか忘れたテスト中お願い神よ今だけ降りて

上村咲蘭

(新潟市立亀田中学校)

一ヶ月休んで明けて初めての給食食べたなつかしい昼

手塚有琉

(新潟市立亀田中学校)

ピヨピヨとかわいい夜店のひよこ達祭りの後はどこへゆく

丸山 慶

(新潟市立亀田中学校)

あまがさにあたる雨水いい音だポツポツバラバラ音が鳴つていて

池藤碧希

(光市立光井中学校)

あと少しページめくる手とまらない気になる続きたまる宿題

福田菜沙

(山口大学教育学部附属山口中学校)

人生で初のライブはサンボマスター勇気をくれたロツクンロール

宮本宗昌

(山口大学教育学部附属山口中学校)

青空に蝉の声あり緑陰で光と風がゆれる季節よ

武安仁愛

(山口大学教育学部附属山口中学校)

## ジュニア部門（高校生の部）

応募歌数 三、三〇〇首

### 選者賞（三枝 浩樹 選）

思い出はいつか旅立つ日のための大 だいじ事なお守り覚えていてね

太田実来

（神奈川県立光陵高等学校）

### 選者賞（田中 愛子 選）

ガラガラと窓を開ければ春の風もうすぐここが思い出になる

岩澤里菜

（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

## 魚沼市長賞

父さんと二人釣り場で将来の夢語る時波音静か

五十嵐有崇

(東京学館新潟高等学校)

## 新潟日報社賞

少年と呼ぶのに期限があるのなら迷彩柄は押し入れの中

石井桃衣

(神奈川県立光陵高等学校)

## 宮柊二記念館長賞・・・六首

1

制服で海まで走る夕暮れに影三つだけ夏の思い出

変わつてく僕らのかたち春愁に揺れる心はまだ幼くて

野球部の照明落とした後の星グランド整備の僕らを見ている

もういない猫の名前をつぶやけばいま カーテンをふくらます風

ブールからあがつたあとに風が吹く夏のにおいが体をつつむ

通学路自転車こげば風鈴の音が聞こえて夏を知る朝

金澤美紘

(新潟県立小出高等学校)

小山最愛

(新潟県立有恒高等学校)

小柳新太

(東京学館新潟高等学校)

安田湖夏

(東京都立武藏高等学校)

横内杏樹

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

山本海菜

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

# 秀逸・・・二十五首

波照らす光の粒をすくいあげ指すき間より夏がこぼれる

片岡弘貴

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

夏祭りはぐれたあと待ち合わせ浴衣の君がすこし照れてる  
姉さんのスーツ姿を見る時の祝福と寂しさ交差している

芝珠璃

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

もういいかい言う子もおらず雪形の返事だけかくれんぼはもうない  
だんだんと君の名前を忘れてくそれだけ今が幸せだから

中村彩乃

(東京学館新潟高等学校)

夕焼けは電車の音を飲み込んで世界をちょっと寂しくさせる

村山梓紗

(新潟県立六日町高等学校)

高橋奈々美

(秋田県立天曲農業高等学校太田分校)

照田佳苗

(神奈川県立光陵高等学校)

永井穂果

(神奈川県立光陵高等学校)

柳原萌々子

(神奈川県立光陵高等学校)

君の書く脊椎の「脊」が横長でなんか眠たげな四限日始め  
教室のお隣さんが君だから世界はちょっと暖かくなる

あなたとの近くて遠いこの距離が忘れた春をそつと揺らした

赤ペンがインク切れして告白を書けずにいたのは三月の風

海静か疲れを癒すサンセット下校途中の稻村ヶ崎

三年生江ノ電通学あと少しもつと知りたい海の表情

潮風に髪ふかれつつ笑い合うこの放課後がずっと続けば

切りたての前髪気づいてくれたのは国語の先生ただ一人だけ

夕立に濡れて笑える帰り道三年の夏空は群青

扇風機部屋にひとりで鳴るリズム宿題だけが夏を急かしてゐる

弟の真似つて思われたくなくて銀杏踏まずに歩く冬の日

三年間注意されればスカートを折つたが私の心は折れない

相模奈緒

(神奈川県立光陵高等学校)

古川眞帆

(神奈川県立光陵高等学校)

畠山璃子

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

安藤百花

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

三浦怜衣

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

濱田 紗

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

森 祐稀

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

内山陽路

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

山田あいり

(東京学館新潟高等学校)

塩野谷莓果

(新潟県立小出高等学校)

改札を出た瞬間に名を呼ばれ朝の景色があなたに変わる

後悔を海辺で叫ぶ僕の声心が澄んで自由になれた

夕暮れにひたすらこいで帰る道毎日違う景色と自分

ひとりずつ起きてくる音少しずつ休日の家ふくらむ匂い

忘れない声が隣で響いてるふと目をそらす春の教室

昼寝して畳の香りで思い出すじいちゃんとみた夏の笑点

息を止め放った槍が風を裂く軌道の果てに声が弾じける

田村美空

（新潟県立小出高等学校）

駒形優和

（新潟県立小出高等学校）

米山優良

（新潟県立小出高等学校）

大平夕羽

（新潟県立小出高等学校）

遠山來令杏

（新潟県立小出高等学校）

遠藤楓也

（新潟県立小出高等学校）

中澤莉緒

（新潟県立小出高等学校）

佳作・・・二十八首

妹を撫でてる姉をそよ風が撫でてるスワンボートの背中

永井穂果

(神奈川県立光陵高等学校)

帰りみちゆれる江の電江の島の夕焼けながめ見る英単語

上村 空

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

蝉の声ひと休みして見上げれば青空までも夏休みかな

西村璃子

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

夕立に濡れたアスファルトきらめいて夏の終わりを足音で知る

塩野紗良

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

イヤホンを片方わけて歩く道青信号まで話は続く

鈴木琉美子

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

誰も見ぬ朝顔ひらく静けさに今日の始まりやわらかく知る

田崎有紗

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

風鈴の澄みゆく音に夜は更けて眠れぬ夢を月にあずけぬ

和田悠亜

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

放課後の廊下を走る笑い声明日のことは明日でいいさ

南 奏汰

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

倒れぬよう吊り革なしで友達と支え合つて朝の江ノ電

土田琉月

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

すれ違い今日は遅いと気づき急ぐ名前も知らない毎朝会う人

土田琉月

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

誰もいない冬の海辺に立ち止まり言えなかつたこと風にまかせた

井上歩美

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

ひまわりの迷路の中で見つけたよ夏の太陽弟の影

小泉柚衣

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

スイカ割り外して笑う仲間いて青空までもが輝かしい

庄司光汰

(神奈川県立七里ガ浜高等学校)

蝉の声死ね死ね死ねと聞こえたる凄き暑さや八月六日

来田千斗

(渋谷教育学園幕張高等学校)

20時の磐越西線旧友の会話が思い出鮮明にする

須藤 舜

(東京学館新潟高等学校)

放課後の電車の窓に青空が今日の疲れがすこしほどけた

米山奈津音

(新潟県立小出高等学校)

負けたあと手を差し出した相手にも拍手を送る自分がいたよ

相澤弥波

(新潟県立小出高等学校)

鉛筆の音だけ響く教室で消した答えが正解だった

佐藤結心

(新潟県立小出高等学校)

河原にて膝を抱えて考える川と時間の流れ感じて

坂牧広夢

(新潟県立小出高等学校)

しゃほん玉風にまかせて飛び回る晴れた青空小さな宇宙

岡部煌葉

(新潟県立小出高等学校)

ひまわりとかけっこをした帰り道麦わら帽子空に置き去り

松木璃歩

(新潟県立小出高等学校)

袖まくり笑う横顔まぶしそうで空見上げてた

田中心偉

(新潟県立小出高等学校)

足あとが波にさらわれなくなつてなんだか少しさみしくなつた

田中 藍

(新潟県立小出高等学校)

制服のポケットの中ぎゅつとある言えなかつた好きの感情

櫻井優翔

(新潟県立小出高等学校)

べつたりと冷たい床に寝転んで二匹揃つてしまつぽを揺らす

本多 棟

(新潟県立小出高等学校)

仲良いね祖父母が手繋ぐ桜道杖の代わりよ祖母は微笑む

山崎 花

(新潟県立十日町総合高等学校)

秋風にふと立ち止まる帰り道誰かを待つような夕焼けの空

堀江悠里菜

(新潟県立堀之内高等学校)

授業中外の木みてメモをとる来世は木になる予定です

丸山那奈

(新潟県立有恒高等学校)

## 第三十一回宮柊二記念館全国短歌大会学校賞授賞校

小学校

新潟県

小千谷市立小千谷小学校

中学校

神奈川県

中央大学附属横浜中学校

高等学校

神奈川県

神奈川県立七里ガ浜高等学校

## 学校賞

学校（学年）全体で取り組み、多数の応募をして、  
優秀な成績を収めた学校に授与する賞です。

令和七年十一月十五日

主催　魚沼市教育委員会　沼  
主管　宮格二記念館  
後援　新潟県

魚沼市教育委員會  
宮格二記念館  
新潟県教育委員會  
新潟市文化協会  
新潟市教育委員會  
新潟市新聞新潟総局  
朝日新聞新潟支局  
毎日新聞新潟支局  
読売新聞新潟支局

協  
贊

越南タイムズ  
小出郷新聞社  
NHK新潟放送局  
NST新潟総合テレビ  
TeNYテレビ新潟  
UX新潟テレビ21  
コスマス短歌会

発行 令和7年11月15日

# 宮於二記念館

---

〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6

TEL・FAX:025-794-3800

Mail:miya-museum@city.uonuma.lg.jp

HP:<https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>

---